

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

医療費4兆円削減社会保障改悪 議員定数削減ゆるされない 暮らし平和守れの声を共に

高市・自民維新政権発足 危険な暴走政治阻止しよう 共産党議員団がまちかどから訴え

臨時国会が21日に召集され、自民党の高市早苗総裁が衆参



左から佐野、たちばな両市議、尾村 大國両県議

両院の本会議での首相指名選挙で、第104代首相に選出されました。即日組閣を行い、自民と日本維新の会による連立政権を発足させました。

日本共産党の田村智子委員長は同日の党国会議員団総会で、戦後の歴史の中でも最悪の政権となる危険があると指摘し「高市自民・維新政権に対し、断固として対決し、危険な暴走政治を阻止するため全力を尽くそう」と呼び掛けました。

どり両松江市議が商店街前で緊急宣伝しました。
尾村県議は「連立政権合意書」には医療費4兆円削減などの社会保障改悪や憲法9条改悪、大軍拡、「スパイ防止法」制定などが盛り込まれているとして「反動的で最も危険な政権だ」と指摘。「みんなで力を合わせて危険な政治を包囲し、国民が主人公の平和な日本をつくらう」と呼びかけました。

大國県議は、多くの国民が望んでいる消費税減税や企業・団体献金の禁止は先送りする一方、維新が国会議員定数1割削減を持ち出したことについて、「衆院比例定数削減は、多様な民意の反映を困難にし、国会の最も重要な役割である政府の監視機能を弱めるものだ」と批判しました。

知っておきたい年金制度 年金者組合 近藤氏が講演

10月19日八束町で行われた市政報告&研修会で「知っておきたい年金の話」と題して年金者組合東部支部の近藤修書記長が講演しました。内容を紹介します。

近藤氏は「年金者組合は高齢者・年金者の組合として1989年に誕生し、以前は3カ月に1回であった年金支給を2カ月に1回にすることを要求し実現してきた。現在は毎月支給にすること、無年金・低年金をなくすためヨーロッパ

パなどで当たり前の『最低補償年金制度』の創設を求めている」と自己紹介。

年金が増えない仕組みについて「1つには、非正規雇用、女性の低賃金、2つに日本では現役世代の月給を基準に年金を算定するが、外国では月給だけでなく賞与を含めて算定しておりILO（国際労働機関）から違反を指摘されている。3つに物価と給与の変動に合わせて年金を上げるようになってきているが、上げ幅の



講演する近藤氏

低い方に合わせているから物価の上昇に追いつかない」と指摘し、ジェンダー平等への取組も詳しく紹介しました。最後に近藤氏は、年金を上げるには、まず働いている人の給与を上げることが大切だとし「現役世代と手をつなぎ、年金上げよと運動を広げよう」とよびかけました。

冷たい国政から市民守る市政へ 共産党市議団が各地で議会報告会

9月定例会が10月7日に閉会しました。国政では、自民党が党内事情を優先させ、国民不在の総裁選に明け暮れ、国民の審判が下された参院選から2カ月半が過ぎました。民意を踏まえた国会審議がまともに行われない中、共産党松江市議団は、危険な国政から市民まもる共同をと各地で議会報告会や街頭宣伝を行っています。

たちばなふみ市議は19日に行われた、八束の明日を考える会の「市政報告&研修会」で議会報告を行いました。水道料金値上げ問題、105億円のエコクリーン松江改修、美保基地への空中給油機10機配備など重要案件、外国人排斥問題や戦後80年にあたり、侵略戦争を美化する動きは許されないなどの議会論戦を報告しました。35名の市民が参加し、懇談の中でAIデマンドバスなどの要望が寄せられました。



市政報告するたちばな市議

佐野みどり市議は秋鹿地域で市政報告会を開催、昨年の集いで出された地域要望である、危険なため池の問題について一般質問で取り上げた内容など9月議会でも取り組んだ内容を報告しました。15名の市民が参加し、懇談で通学路などの要望が寄せられました。樋野伸一市議は、古志原地域で議会報告を行いました。一般質問した国保料滞納者への差押えなどについて報告し参加者と懇談しました。今後も市議団は市内各地域で議会報告会を開催予定です。政治が身近になると好評です。ぜひおでかけください。



市政報告会の様子



後援会の皆さんと宣伝する佐野市議